

OMEP 日本委員会「平和の文化と非暴力」プロジェクト報告

子どもをとりまく文化環境についての調査(1)

－保護者調査の結果に見る平和の文化と非暴力の実態と生活文化－

黒田瑛（OMEP日本委員会） 加藤定夫（宇都宮短大）○瀧口優（白梅短大） 畠中徳子（立教女学院短大） 近喰晴子（山村学園短大） 森久子（富山短大） 瀧口眞央（白梅短大非常勤）

調査の目的

OMEP（世界幼児教育機構）では、1995年に横浜で開催された21回世界大会で「子どもを暴力から守ること、子どもの争いごとに平和的手段で解決する術を学ぶ」ことを決議しました。それを受けて日本委員会は、「平和の文化と非暴力」のプロジェクトを設置し、幼稚園、保育園の保護者にアンケート調査を実施しました。OMEPの世界総裁オードリー・カーチスは、『わたしの平和宣言』についての日本講演で「十分な空間と活動を提供する物理的環境が敵意のある感情を軽減する」と発言しました。今回の調査は、暴力を許さない、暴力や権力以外のものを理想とすること、相手への共感と理解をもって話しあう子どもを育むための生活・文化環境に焦点を当て、玩具、絵本、メディア、家庭の文化などから子どもの攻撃性を軽減する環境を模索しました。

調査対象 全国の幼稚園・保育園に通う
年長児の保護者

調査期日 2003年11月

配布数 1749部

回収率 43.9%

調査票の内容

調査票は属性、遊び・おもちゃ、テレビ・ビデオ、テレビゲーム・ファミコン、絵本などの子どもをとりまいている生活・文化環境、そして、子どものけんかや暴力に対しての対応、イラク戦争についてもたずねました。

《属性》

属性では、家族構成やきょうだいの構成に加えて、生活文化を抽出するために自宅にあるCSテレビや重箱、ペッパーミル、回答者自身の携帯電話などについて質問しています。また、回答者の生活行動と暴力の対応についての相関を知るために、コンサートや映画、外国籍の友人、家族そろっての夕食、隣近所づきあいなどをたずねました。

《あそび・おもちゃ》

あそびおもちゃでは、暴力的なあそびを誘発しやすいブロックなどで機関銃やピストルを作るあそびなどの対応やアバレンジャーや仮面ライダーなどのヒーローごっこ、かくれんぼやサッカーなどの活動的なあそび、絵本や盤ゲームなどの家の中でのあそびの様子を聞いています。また、おもちゃの選び方、キャラクターおもちゃへの関心、あそぶ時間とのかかわりを見るために習い事も聞きました。

《テレビ・ビデオ》

衛星放送、CSテレビなど多チャンネル時代を迎えていますが、子どもたちが見ている番組には傾向性が見られます。ヒーローものや戦隊ものが多く、親には、NHK教育テレビ番組の「日本語であそぼ」や「お母さんと一緒」が高い人気です。ビデオについては購入基準やよく見せるビデオについて聞きました。ディズニーやジブリの作品、テレビのアニメ番組やアバレンジ

ャーなどの戦隊もの、アルプスの少女ハイジに加えてベネッセの子どもチャレンジャーや公文の学習ビデオ、英語の学習教材なども少なくありません。

《テレビゲーム・ファミコン》

テレビゲーム・ファミコンでは親の考え方や暴力性を感じるかどうかをたずねました。親子やきょうだいでやっている家庭もありますが、家では誰もやらないと回答している人も多く見られました。2 時間以上ふあみこんで遊んでいる年長児もいました。

《絵本》

絵本は、読み聞かせの有無や家庭での所有数について聞きました。『ぐりとぐら』シリーズ、『バーバパパ』、『11 ぴきのねこ』シリーズなどを子どもは好んでいます。

《けんかや暴力的な振る舞い》

子どもがけんかをしたときや暴力的なふるまいをしたときの親の対応では、まず、子どもに理由を聞くという人が少なくありませんでした。叱る人は多く、まずは抱きしめるとい人もいました。親の体罰では、子どもに暴力を振るったことがない、と答えた人も少なくありません。暴力を振るってしまった人はしつけ上やむをえないとか、反省したりとか、後味の悪さが伝わってきました。

明らかにしたいこと

◇家庭にある生活用品とそれに囲まれて子どもの暴力性

◇家庭の中にある生活用品とあそびやおもちゃの暴力性

◇親が社会的にどのような活動をしているかと子どものあそびや暴力の関連性

◇テレビ・ビデオなどのメディアと子どものあそびやおもちゃの関連性

◇子どもが暴力的な振る舞いをしたときの

親の対応とテレビや・ビデオなどの依存関係、おもちゃへのこだわり

◇親のテレビ視聴やテレビゲームの依存と子どもの暴力性の関係

◇子どもに見せたいテレビ番組やビデオとその内容から見る親の暴力に対する姿勢

◇親が絵本を選ぶときの基準と親の暴力に対する姿勢

◇子ども中心・子どもまかせという親の暴力に対する姿勢

非暴力の文化を保証するには

自由記述を読んでいると、子どもが友だちに暴力を振るわないようにしたい、という親の気持ちが伝わってきます。その解決策に叱るときに、手を上げて子どもに痛みを教える、という人が少なくありません。しかし、親からの暴力を受けた子どもは、痛みを知るより、友だちに暴力を振るう、という暴力の連鎖のほうが心配になります。

1989 年にユネスコで採択されたセベリア声明には、「攻撃の脳のメカニズムは、刺激によって自動的に誘い出されるのではなく、たとえば、相手の動物がどの程度に親しいかというような社会的な文脈によって調節されています。」と書かれています。

今回の調査結果を踏まえて、親が非暴力の重要性を認識し、暴力は本能でないこと、暴力は連鎖することなどが理解され、子どもが求める愛情を注ぐことが、日常生活の中で、優しさや生きるものを大切にする心を育てることにつながることを提案できればと考えています。

《資料》

調査結果は、当日配布します。